

田無すくすく保育園事業計画

・施設の詳細

開所時間	7:00～20:00
受け入れ年齢	産休明けから
延長保育	18:00～20:00 利用料金：30分150円

1. 運営方針

運営に当たっては、子ども、保護者の方々の立場に立ち、谷戸のびのび保育園が実施してきた方針などを継承しつつ、より良い保育を目指す。

- (1) 子どもたちが1日の生活の大半を保育園で過ごすことから、安全の確保、健康の保持及び衛生の保持などについて細心の注意を払う
- (2) 改めて保育の質の向上を図る
- (3) 関係機関との連携・協力を努める
- (4) 保育内容などの情報開示に努める
- (5) 保育園の運営状況や財務状況を必要に応じて保護者の方々に説明する
- (6) 室内環境改善、人材の育成に力を入れていく

2. 保育理念

「風と光と笑顔あふれる保育園」をモットーに子どもにもおとなにも信頼されるいごちのよい保育園をめざす

3. 保育目標

「こころもからだもげんきな子ども」

- ・いっぱい遊び いっぱい食べ いっぱい寝て にこにこ笑顔で過ごそう
- ・じぶんもまわりの人や物も大切にしよう

4. 保育方針

心身ともに健やかでたくましく成長でき、子ども・保護者との信頼関係を大切にし一人ひとりが安心して自分を出して生活できるような保育

【クラスの保育目標】

0歳児	ひとり一人の生活リズムを整え、基本的な習慣を養う
1歳児	安心できる保育者に見守られ、自分でしようとする気持ちを持つ
2歳児	保育士や友達と一緒に身の回りのことに興味を持ち活動する
3歳児	適切な援助を受けながら生活に必要な事を自分でしようとする
4歳児	意欲的に活動し新しい知識や能力を獲得する
5歳児	生活や遊びの中で達成感や充実感が味わえるように生活する

【年間行事計画】

※別紙 年間行事予定表 参照

5. 令和2年度の重点項目

(1) 保護者との関係性づくり

- ・保護者からの意見・要望などについては実現に努めるとともに、実現の可否にかかわらず、その対応について説明を行う
- ・行事ごとに保護者の方々を対象としたアンケート調査を実施し、その結果を保護者の方々に報告する
- ・家庭状況、家庭環境を十分に理解し、日ごろから子どもの様子を伝えたり、家庭での様子を聞いたりして保護者の思いを受け止め、信頼関係を築く
- ・子どもの思い、保育士の思いをしっかりと伝え、現状を理解してもらう
- ・平日休暇の際のリフレッシュを目的とした保育も受け付けて保護者支援を行う
- ・子育てなどで悩む保護者にはケースに応じ必要な機関への紹介を行う

(2) 給食に対する取り組み

- ・旬の食材を出来るだけ多く使用し変化に富んだメニューの提供を心がける
- ・3月の献立には5歳児のリクエストに応えたものにするなど、園の保育目標に根ざした、子どもたち一人ひとりを大切にする姿勢を給食の中にも反映する
- ・離乳食について保護者と緊密な連携のもと、スムーズな提供に努める（発達のためやす表を活用しながらすすめていく）
- ・アレルギー除去食へのきめ細かい対応
- ・給食衛生管理マニュアルに基づいた対応
- ・野菜を育て食への関心を高める
- ・材料は原則として国産のものを使用するように努める（やむを得ないものは除く）
- ・年間食育計画に基づいた取り組みの実施

(3) 保育活動

- ・限られたスペースの中で、子どもたちが自分の空間を見つけ、落ち着いて過ごせる場所づくりをする
- ・子どもの固有の感性を引き出して豊かに育み、育んだ豊かな感性を保てるよう、子どもの感じ方や考えを積極的に受容する
- ・子どもが自由に遊べるよう、また主体的に遊べるよう、育ちにふさわしい環境、玩具を準備しておく
- ・園周辺のさまざまな公園で目的に応じた戸外遊びを行う
- ・ひとり一人の子どもを大切に、「自分は愛されている・大切にされている」思いを育む
- ・家庭的な雰囲気づくりにつとめる
- ・延長保育、土曜保育は、特に落ち着いて過ごせるように配慮する

(4) 職員の協力体制・資質向上

- ・職員間で情報を共有する
- ・保育園全体をひとつ家庭と捉え、担任以外の全ての子どもにも目を向け、ひとり一人の子どもの状況などについて共通理解できるようにする
- ・それぞれの役割を自覚し、責任を果たすと共に、他の職員の立場や状況を十分に理解し、お互いに協力し合い助け合う
- ・クラス内で積極的にコミュニケーションをとり、子どもにとってより良い関わりを一緒に見出していく
- ・子どもたちひとり一人をしっかりと理解することに努め、気になることなどは、会議などの場において、全員で考える

6. 職員構成

職種	正規職員	契約職員
園長	1名	
主任保育士	1名	
保育士	12名	
常勤的非常勤		1名
短時間保育士		6名
保育士補助		2名
看護師	1名	
管理栄養士	1名	
調理師	1名	
調理補助		5名
事務		1名
計	17名	15名

7. その他事業

地域の社会資源として、利用者にとっても住民にとっても、地域との関わりを持ちながら暮らすことを支援する「地域の中の施設」でなければならない。その為には、施設の持つ特性を地域社会へ発揮していくとともに、地域の持つ特性を施設へ活用していく。

(1) 地域交流・地域子育て支援

- ①保育所体験
- ②園庭開放
- ③世代間交流（各行事への招待）
- ④地域文庫への訪問

(2) 小学校との連携

- ①児童要録にて情報共有を図る
- ②近隣小学校への訪問

(3) ボランティア・実習生・就業体験の受け入れ

望ましい職業観、勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育。

- ①保育士養成機関実習生受け入れ
- ②西東京市社会福祉協議会からボランティアの受け入れ
- ③西東京市内の中学生の就業体験の受け入れ

(4) 要支援児計画

発達気になる園児に対し、全職員が共通理解を持ち、園全体で発達を見守る姿勢を持つ。また定期的に関係機関と連絡を取り相談・情報共有を図り成長を見守る。

8. 健康管理

- | | | |
|----------|-----|--------|
| (1) 健康診断 | 年2回 | 0歳児は毎月 |
| (2) 歯科検診 | 年2回 | |
| (3) 眼科検診 | 年1回 | |
| (4) 乳児健診 | 毎月 | |

9. 保健衛生管理

保育園は子ども達が一日の多くの時間を過ごす場所であることから、健康面については細心の注意をはらって、きめ細かく、子ども達の体調に留意した保育を行っていく

- (1) 定期的に嘱託医による健康診断、検診を行う（上記参照）
- (2) 在園児の予防接種の記録並びに法的伝染病の罹患記録を随時更新、また保管
- (3) 毎月身長体重を測定し、結果をけんこうの記録に記入
- (4) 乳幼児突然死症候群対策として、0歳児5分ごとの記録、1・2歳児10分、幼児30分おきに睡眠中チェックを行う
- (5) 温度・湿度計を各保育室に設置し、室内環境の維持を心掛ける
- (6) 加湿器・空気清浄機を使用し、ウイルスの飛散の防止に努める

10. 危機管理

- | | |
|-------------------|--|
| (1) 避難訓練 | 年間計画表に沿って実施（毎月）
事業継続計画（BCP）の見直し（年1回）
防災設備の点検委託（年2回 内届け出1回） |
| (2) 不審者対応訓練 | 田無警察署指導またはセコムのもと訓練を行う（年1回）
事故防止対応マニュアルの見直し（年1回） |
| (3) 非常食・食糧の備蓄 | 全児童+全職員×3食（約3日分） |
| (4) AEDの設置 | |
| (5) 救急救命講習 | 西東京消防署指導のもと講習会を行う（年1回） |
| (6) 乳幼児用呼吸モニターを設置 | SIDSチェック（毎日） |
| (7) 光化学スモッグの対応 | 注意報発令時には学校情報をもとに外出を控え、部屋を閉め切るなどの対応を行い、保護者に周知する |

11. 職員会議

- | | |
|---------------|------|
| (1) 職員全体会議 | 毎月1回 |
| (2) 乳幼児会議 | 随時 |
| (3) リーダー保育士会議 | 随時 |
| (4) 給食会議 | 毎月1回 |

12. 苦情処理

苦情への適切な対応により、利用者の満足度を高めると共に、利用者が適切に利用する事が出来るように支援する事と、苦情を密室化せず社会性や客観性を確保し、一定のルールに沿った方法で解決を進めることにより、円滑・円満な解決の促進や当園の信頼と適正性を図る為に苦情解決規程を設けて、お知らせなどで周知する

1 3. 情報公開

ホームページの開設

実施されているサービス内容や経営内容などの情報について、透明性の確保に努める

1 4. 研修計画

保育士等には自分自身の資質の向上を意識し、業務に必要な基本知識や技能を高め、専門性を高める意識を持ち、研修で学んだ事を日々の保育活動に活かしていく必要がある。保育士に求められる人間性と専門性について次の3つの視点をあげる。

(1) 子どもたちの育ちを援助する力を身につける

- ・保育士の意図を優先し、子どもたちに対して一歩的に自身の考えを押しついたり、働きかけたりするのではなく、保育の中心は子どもが主体であるという認識のもと、子どもの思いを感じ取る（寄り添う）事が大切である。援助の方法はひとり一人の状態や状況によって違う。子ども自身が自ら、自分の課題を乗り越えて行くことの出来るよう、援助を行う事が必要だと考える

(2) 保育士が豊かな人間性を身につける

- ・子どもの理解や受容は決して一方的なものではなく、保育士の心と子どもの心の相互的な営みであると考え。子どもの気持ちを受け止めようと、保育士が一人の人間として、子どもと関わる時、子どもたちは、それを感じ取り、心を開き、自分らしさを表現する。
この関係こそが、互いの信頼関係を生み出す基盤となると考える

(3) モデルとしての保育士

- ・保育士が自覚しなければならないことは、自分の持つ文化や価値観の枠組みを、保育の場において、意図的、または無意識のうちに子どもに示しているということである。
その時保育士は、この枠組みや価値観を絶対視することなく、いつも柔軟な姿勢で見直し続ける必要があると考える。子どもに自分の価値観を押しつけるのではなく、子ども自身が主体的に、取り入れたり、乗り越えていけるようにする事が大切だと考える。

これらの視点から、令和2年度は以下の目的による研修を実施する。

①専門性を高める研修

- ・保育に必要な基本的知識及び実践力の向上に繋がる研修と、多様なニーズに対応する為の研修

②自己課題を解決・達成する研修

- ・ひとり一人の子どもの持つ課題に対して、どのように援助を行うのか、資質向上の研修

③ライフステージに応じた研修

- ・年齢や経験に応じた立場や役割を認識し、職務を遂行する為に資質、指導力の向上を図る研修

⑤キャリアアップ研修

- ・それぞれの専門分野に関してリーダー的な役割を務めるものが学ぶ研修